

国立病院機構熊本医療センター

No.194



くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519

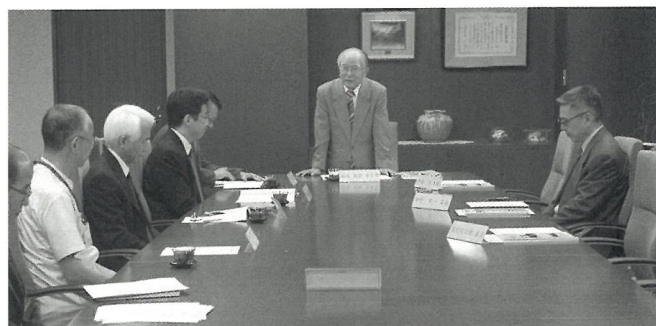
平成25年度第1回

開放型病院運営協議会が開催されました

— 開放型病院連絡会の日程が決まりました —

国立病院機構熊本医療センター開放型病院運営協議会が6月25日に当院会議室にて開催されました。協議会には外部委員として、熊本市医師会長の福島敬祐先生（委員長）、熊本市医師会理事の田中英一先生にご出席いただきました。河野院長の開会挨拶、福島委員長のご挨拶に引き続き議事に移りました。先ず、事務局より地区別登録医数、開放型病院共同指導実績、くまびょうニュースの発行状況について報告がなされました。続いて、平成25年度第1回開放型病院連絡会の開催について協議が行われ、今年は平成25年9月10日（火）午後7時より、ホテル日航熊本（5階阿蘇の間）で開催することが決定いたしました。開放型連絡会総会では、2例ほどの症例呈示と地域医療連携室からの

お知らせを行ない、その後、意見交換会を予定いたしております。多数の先生方、コメディカルスタッフ、看護師、MSW、事務の方々にもご参加いただきますようお願い申し上げます。（管理課長 中村 敦）



開放型病院運営協議会での福島先生のご挨拶

第35回 国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会

日 時：平成25年9月10日（火）午後7時00分～

会 場：ホテル日航熊本（5階阿蘇の間）

内 容：開放型病院連絡会総会

1. 症例の呈示
2. 地域医療連携室からのお知らせ
意見交換会

【連絡先】 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1-5 096-353-6501 内線5690

国立病院機構熊本医療センター管理課（中村・富田）

基 本 理 念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運 営 方 針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営



「自由が丘病院 ～東京にはないはず～」

自由が丘病院
院長 平原 信雄

熊本市北区にございます精神科病院 自由が丘病院の平原です。どこにでもありそうな病院名と思っておりましたが、私がYahoo及びGoogleで検索した範囲では東京にはなさそうです。名付け親には先見の明があったのでしょうか。私が当院をPRする場合には“熊本なのに自由が丘”と一つのネタになります。最近、父（輝雄）に病院名の由来を尋ねたところ、嘘か本当か「おっが次男どが、次男の雄（おす）だけん“ジュウ”、丘の上だけん“自由が丘”た、こんほうが響きんよかろが（私が次男でしょう、次男の雄だから“ジュウ”、丘の上にあるから“自由が丘”、こちらのほうが聞こえ方がよいでしょう）」ということでした。当院は昭和55年に開設されました。当初は統合失調症患者が入院の中心でしたが、熊本県下では初めての鉄格子のない病院だったと聞いています。

当院の基本理念は「こころの通った医療」「こ

ろ安らぐ看護」としまして、病気だけを相手にするのではなく、一人一人の尊い人と接し、心の通った医療を提供することを重視しています。このなかで、当院では「患者様（お客様）」ではなく、共に治療をすすめていくパートナーとして親しみを込めて「患者さん」と呼ぶことにしています。

外来では学童期から老年期まで幅広く診療していますが、当院でも入院患者の高齢化が進んでおり、身体合併症や急変で苦慮することがあります。基本的には地域の開業医の先生方にご協力いただき、連携して治療を行っていますが、夜間・休日の対応や精神症状が著しい方の身体合併症については国立医療センターにお願いしてばかりいるのが現状です。

私自身は今年度から、救急外来の現場に立ちかわせていただく機会をいただいておりますが、年間8000台の公的救急車を受け入れる包容力に圧倒され、足手まといにならぬようにいるだけです。国立医療センターが必ず支援してくださる保障があるので、地域開業医が安心して自院で診療を行っていると改めて実感大変感謝いたしております。

どうぞ今後ともよろしく願い申し上げます。



美人若手スタッフが
多い自由が丘

平成25年度 第1回熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会報告

平成25年度第1回熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会が7月18日（木）午後7時より、熊本県歯科医師会館会議室で開催されました。熊本市歯科医師会からは宮本格尚会長、渡辺猛士副会長、田中弥興副会長、高松尚史専務理事、有働秀一医療管理理事、高橋禎医療管理委員長に出席いただき、当院より河野院長、高橋副院長、清川総括診療部長、原田救命救急科医長、中島歯科口腔外科部長が出席しました。

宮本会長、河野院長からのあいさつの後、議事に入りました。まず、当院の歯科紹介患者の議題では中島部長から、紹介率は平成24年度が32%であり、平成25年度はこれまで院外37%となり、院外紹介の実数や院内紹介も増加していることが報告されました。

当院の歯科救急医療についての議題では、原田院長より昨年度は今まで最多の216件であり、今年上半期も例年並みの96件の歯科口腔外科救急症例があったこと、具体的には義歯やリーマーの誤飲例などが示されました。

次に救急蘇生講習会について、今年度の開催が11月14日（木）であることを確認し、直前の混乱がないように1週間前までに参加者の確定を行うことを再度、申し合わせました。

続いて高橋副院長から、平成25年度第1回国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会が9月10日（火）午後7時から、ホテル日航熊本にて開催されることが案内されました。

その他として中島歯科口腔外科部長より、がん患者医科歯科連携事業に関して、現在の当院における進捗状況と今後の予定の説明があり、がん患者だけでなく、糖尿病や自己免疫疾患などにおける歯科の役割を医科にも周知徹底することにより医科歯科連携を一層進めていきたいとの意見の一致をみました。また歯科医師会側からは新執行部体制になり、今後も当院との良い関係を続けていきたいとの要望があり、閉会となりました。

（歯科口腔外科部長 中島 健）

外来紹介

消化器内科



消化器内科外来スタッフ

消化器内科は医師9名 看護師8名（うち内視鏡技師4名） ドクタークラーク3名 受付クラーク2名で連携をとりながら業務にあたっています。

診療部門では、肝胆膵疾患をはじめ消化管全般にわたって診療を行っています。

肝疾患は慢性疾患が多く長期にわたる治療が必要となります。C型慢性肝炎ではインターフェロン療法を受ける患者さまも多く「インターフェロン地域連携パスポート」を活用し、治療が継続できるよう力を注いでいます。

また内視鏡部門では、上下部消化管内視鏡検査に加え、治療内視鏡として内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）内視鏡的粘膜切除術（EMR）食道静脈瘤に対して硬化療法（EIS）、結紮術（EVL）、総胆管結石に対して乳頭切開術（EST）やバルーン拡張術（EPBD）も行っています。また嚥下障害の患者さまには胃瘻造設術（PEG）を行っています。

患者さまにとって苦痛を伴う検査・治療が多い中で、明るく清潔で快適な環境で検査をうけて頂けるよう配慮しています。

当院の特徴として断らない救急医療を提供しており、上下部消化管止血術、異物除去など多くの救急症例にも対応しています。

進歩する医療技術に対応するため、自己研鑽に励み患者さまにとって安全で安心な医療を提供してまいります。どうぞよろしくお願いたします。

（消化器内科看護師 才田より子）



消化器病センタークラーク



消化器内科外来看護師



内視鏡検査の様子

2013
診療科紹介 (62)
泌尿器科



部長
菊川 浩明 (きくかわ ひろあき)
 泌尿器科悪性腫瘍、泌尿器科一般救急疾患、神経因性膀胱、排尿障害鏡視下手術、婦人泌尿器科
 日本泌尿器科学会認定指導医・専門医
 日本泌尿器科学会評議員
 身体障害者福祉法認定医(膀胱)
 日本がん治療認定医機構暫定教育医
 熊本大学医学部臨床教授



医長
陣内 良映 (じんのうち よしてる)
 泌尿器科悪性腫瘍、神経因性膀胱排尿障害、泌尿器科一般、救急疾患鏡視下手術、婦人泌尿器科
 日本泌尿器科学会認定指導医・専門医
 日本泌尿器科学会評議員
 日本がん治療認定医機構暫定認定医



医長
瀬下 博志 (せした ひろし)
 泌尿器科悪性腫瘍、神経因性膀胱排尿障害、泌尿器科一般、救急疾患内視鏡手術
 日本泌尿器科学会認定指導医・専門医
 日本泌尿器科学会評議員
 日本がん治療認定医機構暫定認定医



医師
脊川 卓也 (せがわ たくや)
 泌尿器科一般、内視鏡手術緩和治療、泌尿器科救急疾患

診療内容と特色

尿潜血精査から尿路・性器悪性腫瘍、小児泌尿器科、尿失禁・下部尿路機能障害まで泌尿器科全般を行っています。特に、尿路性器腫瘍(腎細胞癌、腎盂・尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣癌)の治療には力を入れており、膀胱癌を中心とした尿路上皮腫瘍は症例数、手術数においても十分な実績及び経験を積んでいます。また最新医療に関しては、2012年1月より前立腺肥大症の低侵襲治療としてグリーンライトレーザーによる経尿道的前立腺蒸散術を開始しており、今年度からは、あらたに前立腺癌に対して密封小線源治療(ブラキセラピー)を導入予定です。また、救命救急センターとも連携し、すべての泌尿器科救急疾患の治療にも携わっています。(日本泌尿器科学会認定指導施設)



医師
矢野 大輔 (やの だいすけ)
 泌尿器一般、内視鏡手術
 尿路感染症



医師
銘苅 晋吾 (めかる しんご)
 泌尿器科一般、尿路感染症
 泌尿器科救急疾患



医師
土岐 直隆 (とき なおたか)
 泌尿器科一般、神経因性膀胱
 日本泌尿器科学会認定指導医・専門医
 日本泌尿器科学会評議員

症例数・治療・成績

病棟は常時30名前後の入院があります。平成24年度の新入院患者数は1052名でした。平均在院日数も11日前後です。外来は昨年851名の新患受診がありました。尿路悪性腫瘍を中心に診療をおこなっており、特に腎臓癌、膀胱癌、前立腺癌など多くの症例を紹介頂いています。膀胱癌症例の約8割は内視鏡下切除(TUR-BT)にて治療可能です。内視鏡治療が困難な浸潤性膀胱癌で膀胱温存を目指す場合は、放射線科の協力で抗癌剤動脈内注入療法を施行後、内視鏡切除術を追加します。膀胱全摘が必要な場合は、尿路変更としてストーマ(尿袋)の要らない自然排尿型新膀胱形成術(Studer変法)も取り入れ、個々の症例に応じた治療を行っています。過去10年間に約200例の膀胱全摘術を経験しており、症例数としては国内トップレベルです。平成13年に開始した鏡視下副腎・腎・尿管手術も130例に達しました。増加の著しい前立腺癌に対しては、まず1泊入院で針生検を行い外来で病期診断を行った後、治療方針を決定します。ホルモン治療や手術療法、放射線療法など、総合病院の特性を活かした治療選択肢を揃え対応しています。なお、今年度より前立腺癌の放射線療法の治療オプションとして密封小線源療法(ブラキセラピー)を導入します。この治療法は手術に劣らない効果があり、手術療法の合併症としてみられる尿失禁、勃起障害(ED)にほとんど影響を与えないなど、患者様のニーズに合わせた治療法として期待しています。このような“切らずに治す前立腺癌”の治療にも積極的に取り組んで行く予定です。診断の付きにくい腎盂・尿管腫瘍に対しては積極的に尿管ファイバーを施行し、可能な症例については腎臓温存術も行っています。女性の尿失禁手術(TVT、TOT手術)もこれまでに30例ほど行い、一昨年開始した骨盤臓器脱手術(TVM)も30例ほど経験し良好な成績をあげています。2012年1月に全国に先駆け導入したグリーンライトレーザーによる経尿道的前立腺蒸散術(PVP)は出血もほとんどないため1週間弱の入院で治療可能です。1年間に84例の患者様がグリーンライトレーザー治療を受けられました。平成24年度の総手術件数は473件でした。

ご案内

月～金。水曜は手術日にて新患のみです。ただし急患は24時間対応します。
 菊川・瀬下=火、金 陣内・脊川=月、木
 矢野=火 土岐=木 銘苅=金

熊病の歴史

脳神経外科

日本における脳神経外科の歴史は新しく、1965年（昭和40年）に標榜科として正式に認可されました。認可以前では、一般外科医により脳手術が時折実施され、ここ熊本においては、当時の第一外科学教室がその役割を担っておりました。1968年（昭和43年）に初代教授の松角康彦先生が九州大学から赴任され、熊本大学脳外科学教室が開設されました。1988年（昭和63年）に第二代教授として大阪大学から生塩之敬先生が赴任されましたが、当院脳神経外科は、1994年（平成6年）4月1日に国立熊本病院（当時）院長の宮崎久義先生および倉津純一医局長（当時、現第三代教授）のご尽力を得て診療科の開設に至りました。

初代医長として、水俣市立総合医療センター（当時）部長の北野郁夫先生（メディカルケアセンター・ファイン現院長）が赴任されました。熊大関連の脳神経外科教育訓練施設としては、1974年（昭和49年）の済生会熊本病院、1975年（昭和50年）の熊本赤十字病院の開設を皮切りに現在24施設にまで増加しておりますが、そのうち当科の開設は第21番目に当たります（当院標榜の24診療科のなかでは第22番目の開設に相当）。当院の脳神経外科は、熊大関連あるいは当院診療科のなかでも最も歴史の浅い診療科のひとつになります。当



然、開設間もない時期では、くも膜下出血や脳腫瘍の手術等については熊大医局からの応援を必要としました。その後、濱田一也先生、前田達観先生が赴任し3人診療体制が整いました。

1999年（平成11年）10月に筆者大塚が第二代医長（国立病院機構熊本医療センター現部長）として人吉総合病院（部長）より赴任致しました。丁度この頃は、当院では救急体制が整い救急患者受け入れに対する院内コンセンサスも得られ、脳卒中や頭部外傷診療には何ら支障はありませんでしたが、年間入院数240名や手術件数90件は満足できるものではありません。その後、秀拓一郎先生、築城裕正先生、佐藤恭一先生、太田和貴先生、吉里公夫先生（現医長）、濱崎清利先生、吉永 豊先生、植川 顕先生、中川隆志先生、天達俊博先生、藤本健二先生（現レジデント）の諸先生方の活躍により、年間入院数540名、手術件数220件となり、多忙を極めるようになりました。

現在、当施設は、関連施設の老舗である「済生会」や「日赤」に約20年遅れて開設されましたが、脳卒中メジャー疾病である破裂脳動脈瘤（くも膜下出血）に関する入院数、手術件数については、両施設の背中も間近になったものと自負しております。歴史を語るにはあまりにも若い施設ではありますが、将来、多くのご協力をお願いして長く確かな歴史が刻まれることを切に願っております。

（参考文献）

熊本大学脳神経外科学教室開講20周年記念同門会誌

【脳神経外科部長 大塚 忠弘】

佐々木教授による特別講演が行われました

平成25年6月13日19時より「生活習慣よりみた消化器疾患・肝疾患」と題して熊本大学大学院生命科学 研究部消化器内科学 佐々木裕教授による特別講演が行われました。会場は186名の参加者で溢れんばかりに埋め尽くされていました。

前半は生活習慣と消化器疾患に関するお話でした。GERD（胃・食道逆流症）に関して女性では睡眠不足や運動不足が、男性では肥満や魚の摂取が危険因子であるとのお話でした。大腸がんは近年増加傾向にあり、飲酒、喫煙、糖尿病に加え、特に内臓脂肪型肥満が強く関係し、その背景には動物性脂質やたんぱく質摂取の増加があるとのことでした。その中で平坦陥凹型腫瘍と側方進展型腫瘍が大腸進行がんの25%を占め、前者は早期に発見しづらく後者はほとん



佐々木教授の講演の様子

どが右側大腸に存在することが検査上の問題点であるとのことでした。

後半は生活習慣と肝疾患のお話でした。非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）と非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）の病態、遺伝的要因、発がんとの関係をお話しされました。

最後に食習慣を含めた生活習慣の是正が、消化器疾患や肝疾患の発症予防や進展の抑制に不可欠であると結ばれました。

講演は自施設の研究成果を交えて最新の知見を詳細にお話しされましたが、最初から最後まで分かり易く配慮され、参加者にとっては大変有意義であったと思われます。

（消化器内科部長 杉 和洋）



満席となった会場の様子

山本教授による特別講演が行われました

去る7月3日午後7時より、当院研修センターホールにて熊本大学大学院医学薬学研究部麻酔科学分野教授である山本達郎先生をお迎えして「神経障害痛の治療戦略」という演題で特別講演が行われました。山本教授は疼痛に効果のある薬剤の基礎的研究を教室のメインテーマとして掲げておられる先生です。



質問に答えられる山本教授

痛みは、診療科を問わず患者さんが訴える症状のひとつであり、講演を聴講した皆様にとっては対応に苦慮する神経障害痛（ニューロパシックペインとも言われる）の基礎から最新の診断ツール、ガイドラインに沿った薬剤選択を確認するのに大いに役立ったのではないのでしょうか。（麻酔科部長 瀧 賢一郎）



講演される山本教授

災害医療コーディネーターの協定締結式が行われました

平成25年6月17日に「災害医療コーディネーター」の協定締結式が、熊本県庁で行われました。

この協定は熊本県内で大規模災害が発生した際に適応されるもので、県からの要請があれば災害現場へ出務し、県の災害医療対策に対し医療の専門家として提言するなどの業務が含まれます。



6医療機関の代表者と県知事との記念撮影



◀蒲島県知事との記念撮影



協定締結式の様子▶

今回、県内6つの医療機関（熊大医学部附属病院、熊本赤十字病院、済生会熊本病院、熊本労災病院、人吉総合病院、熊本医療センター）の間で協定が結ばれ、これは九州では初めての事となります。県そして医療機関が一丸となり、県民の安全を守るべく取り組んでいければと期待しております。

（副院長 高橋 毅）

平成25年度 看護師再チャレンジ研修を行いました

6月24日から26日までの3日間、『潜在看護師の再開発を行い、看護師への復帰の手がかりにする』という目的で看護師再チャレンジ研修を行いました。

本研修は今年度で10回目を迎え、例年、5日間で実施をしていましたが、参加者が集中して参加できるよう今年度は3日間で実施しました。また、今年度は3名の参加があり、これで35名の方が本研修を修了されました。

参加者は、臨床から離れて5年～13年というなかで、看護を学び直し、看護の現場へ復帰したいという希望を持って本研修に参加されました。講義や演習を進める中、医療や看護に関する知識や技術の目まぐるしい変化に驚きを隠せない状況でありましたが、積極的に参加され、より多くの学びを吸収しようという姿勢がみられました。

病棟実習では、代謝内科病棟、消化器・呼吸器病棟、脳外科・神経内科病棟で経験させていただきました。看護師から詳しく説明を受けたり、一緒に日常生活援助を行わせていただいたりと病棟実習は1日間ではあ



救急蘇生の演習

りましたが多くの経験をさせていただきました。研修生からは「昔、働いていたころの自分を思い出し、自然に援助に入れた」という意見も聞かれ、現場復帰への自信にもつながったのではないかと思います。

研修終了後の振り返りでは、「復職への不安はあったが、この研修をきっかけに頑張っていこうと思う」という意見が聞かれました。

終講式では、河野学校長、佐伯看護部長へ出席いただき、「知識や技術は変化していても看護の心はいつまでも変わらない」というお言葉をいただきました。研修生はそれぞれ看護に対する思いを胸に新たな再出発をされることだと思います。

今回の研修でご協力いただいた皆様に感謝し、次年度は更に充実した研修にすることができるよう取り組んでいきたいと思ひます。

（担当教員 石井 美香子）



閉講式：
河野学校長より修了証書授与

看護師再チャレンジ3日研修
平成25年度受講者募集

あなたの看護師免許を再取得しませんか？

■ 平成25年6月24日～6月26日
毎日9:00～16:00

※ 各日の研修終了後、夜間研修を実施いたします。

※ 受講料 3,000円（研修費）
※ 受講料 4,000円（研修費）
※ 受講料 5,000円（研修費）

TEL: 096-352-5591
E-mail: kaitis@kumamoto-hosp.go.jp

国立熊本総合病院センター一階看護部
〒860-0811 熊本県熊本市中央区東下町1-1-1
TEL: 096-352-5591

最近のトピックス
血管新生療法の現状

循環器内科部長
藤本 和輝

当院では、平成14年から末梢血行障害に対して自己骨髄単核球を用いた血管新生療法を開始しました。平成18年に高度先進医療の承認を取得し、現在までに45例施行しました。

血管新生療法の適応は、末梢血行障害を認め、経皮的血管形成術、手術の適応がなく、薬物療法が無効な症例です。除外基準は、担癌患者、全身麻酔ができない患者さんです。

方法は、全身麻酔下に腸骨から骨髄を600～80ml採取し、骨髄単核球を濃縮分離し、虚血を認める部位に筋注します。その際、あらかじめ自己血を採血しておき、自己血輸血を行います。自己血が採血できない患者さんは、輸血を行います。

治療成績は、

1) 閉塞性動脈硬化症

25例、69.3±8.3歳（男性：1例、女性：4例）、41肢。25例中19例で自覚症状が改善し創部が治癒し大切断を回避できましたが、6例で大切断となりました。2例は、浅大腿動脈起始部から閉塞しており、施行後、やや改善したが、大切断となりました。4例は、膝下病変のみで、いったん改善しましたが大切断となりました。

2) バージャー病

10例、48.3±15.2歳（男性：6例、女性：4例）、19肢。全例で自覚症状が改善し創部が治癒し大切断を回避できました。

3) 新しい工夫

閉塞性動脈硬化症で病変が多領域に及ぶ症例に対して、経皮的血管形成術+血管新生療法のハイブリッド療法を施行しました。3例、70.3±10.8歳（男性：3例）。全例で自覚症状が改善し創部が治癒し大切断を回避できました。

4) 新しい適応

膠原病による血行障害に対して施行しました。10例、44.9±18.1歳（男性：5例、女性：5例、強皮症：5例、結節性多発動脈炎：2例、全身性エリテマトーデス：2例、混合性結合織病：1例）、20肢。全例で自覚症状が改善し創部が治癒し大切断を回避できました。症例を提示します。強皮症で左下腿にアキレス腱が露出する壊疽を認めます（図1）。血管新生療法施行後、3か月で治癒（図2）し、下腿の切断が回避できました。

以上の結果ら、血管新生療法は、膝上の血流が確保できている膝下病変に対して有効でした。また、閉塞性動脈硬化症に比べて、非動脈硬化性疾患（バージャー病、膠原病）のほうが非常に有効でした。

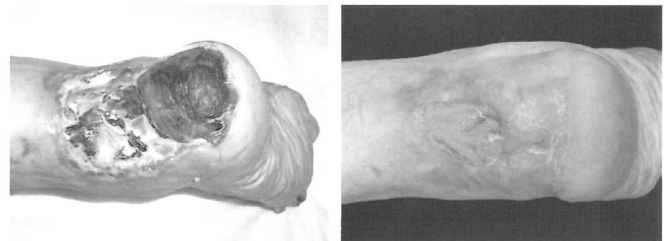

図1
血管新生療法施行前

図2
血管新生療法施行後

新任職員紹介

放射線科

 たのうえ しょうた
田上 昇太

7月より放射線科医師として赴任しました、田上昇太と申します。出身は八代で、平成21年に熊本大学を卒業後、福岡徳洲会病院と熊本大学医学部付属病院にて初期研修を行い、熊大の画像診断・治療科に入局し

ました。大学病院で勤務後、2年間玉名中央病院で勤務しておりましたが、その頃より熊本医療センターが熊本の医療を支える上で欠かせない病院であることを常に実感させられていました。今回そのような環境に身を置けることを嬉しく思っています。放射線科医としては3年目でまだまだ未熟な所も多いですが、臨床医の先生方の良きパートナーとなれるよう精進していきたいです。ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願いたします。

**いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか**

シリーズ76回



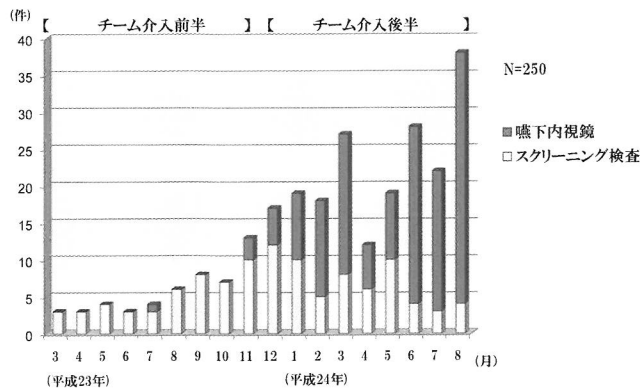
歯科衛生士 山下 真実

「多職種が連携して立ち上げた摂食・嚥下チームにおける取り組み」

人間にとって口から食べる事は生命の維持、増進という面だけでなく幸福感、満足感等を得るために必要不可欠です。長期間の非経口栄養により生じる口腔や咽頭の機能低下に伴い、口腔汚染や廃用症候群のリスクが高まるのが近年報告されています。不顕性誤嚥や廃用症候群等の合併症の予防には、口腔ケア、摂食嚥下機能評価といった適切なリスクマネージメントが重要であり、また早期に摂食嚥下リハビリテーションを開始し、機能評価に応じた経口摂取を開始することが経管栄養やPEG増設の回避、早期離床へと繋がると考えられています。

当院では、平成23年2月より歯科医師、医師、看護師、理学療法士、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士が連携し、多職種協働による摂食嚥下チームを立ち上げ病棟ラウンドを行っています。

平成23年3月から平成24年8月までに評価を行った患者数は233名で、重複した患者を入れ250件の評価を行いました(表1)。



(表1) 嚥下評価を行った件数 (平成23年3月～24年8月)

評価時と退院時の食事の形態では、評価時、経口摂取していない患者が全体の約8割を占めていたのに対し、退院時は約3割と減少しています。さらに、嚥下

チーム介入前半の9ヶ月と後半の9ヶ月を脳卒中患者において比較すると、入院から嚥下評価依頼が出るまでの日数は24日から8日へと大幅に短縮しています。それに伴い、在院日数も44日から28日と短くなりました。早期に適切な嚥下評価を行う事が在院日数の短縮に繋がった可能性があると考えられます。経口摂取移行率においては、前半に比べ評価依頼が出るまでの日数が短縮し、リスクの高い患者が増加した為か下がっていますが、入院から経口摂取移行までの日数は短縮しています(表2)。

	チーム介入前半 (平成23年3月～11月)	チーム介入後半 (12月～平成24年8月)
入院から依頼が出るまでの日数	24.2日 (n=29)	8.7日 (n=66)
在院日数	44.6日 (n=29)	28.4日 (n=66)
経口摂取移行率	79.3% (n=29)	68.1% (n=66)
入院から経口摂取移行までの日数	14.7日 (n=23)	10.3日 (n=45)

(表2) 脳卒中患者における嚥下チームの介入前半と後半の比

依頼数の増加、前半に比べ早期に依頼が出るようになった事から、院内で周知され摂食嚥下に対する認識が高まったと考えられます。さらに早期への介入や口腔ケアの充実により、経口摂取移行者の増加、さらなる在院日数の短縮に繋がると共に、嚥下障害の病態である意識障害や低栄養にも着目して行きたいと考えています。

今後は多職種での院内研修会等を重ね、さらに口腔ケア、摂食嚥下の認知度を院内全体で高め、地域連携にも力を入れて行く必要があると考えています。

田代主任が消防署より人命救助で表彰されました

去る平成25年6月20日(木)、熊本市東消防署 本田覚署長より、火災現場で人名救助に功労のありました、当院の田代博崇臨床工学技士主任へ表彰状が贈呈されました。



表彰状贈呈式の様子



田代博崇臨床工学技士主任

これは、6月12日午前0時頃、自宅近くの民家で火災が起きた際に田代氏がいち早く現場に駆けつけ、逃げ遅れ玄関近くの廊下にうずくまっていた男性を発見し、炎と煙が充満する中から手を取って外に連れ出し救助した功績を称え表彰されたものです。救出直後2階部分が焼け落ち全焼した火災でしたが、田代氏の迅速で勇敢な行動のおかげで、その救出された男性は軽傷で一命を取り留めることが出来ました。田代氏は「無我夢中でした。助けられて良かった。」と火災当日を振り返り感想を述べられました。

(副院長 高橋 毅)

研修医レポート

臨床研修医

すずき しょうたろう
鈴木 翔太郎



こんにちは。研修医1年目の鈴木翔太郎と申します。山口大学医学部を卒業し、4月から熊本医療センターで初期研修をさせていただいております。研修医生活が始まってからあっという間に3ヶ月が経ち、少しずつ病院や仕事にも慣れてきましたが、まだまだスタッフの皆さんに迷惑をおかけしている毎日です。

私は1年目に呼吸器内科、救命部、循環器内科、外科、消化器内科、麻酔科をローテートさせていただくことになっております。最初に回った呼吸器内科では、院内でのルールをはじめとして、スタッフ間の情報共有や報告・連絡の重要性、患者さんとの接し方、接遇など医師として働く上で重要なことを学びました。ま

た、気管支喘息やCOPD、肺炎、気胸などのcommon diseaseの治療についても実際に患者さんを担当し、毎日の経過を診ていくことで学ぶことができました。また肺癌の患者さんも多く担当させていただいたので、抗癌剤治療以外にも癌性疼痛への対応や緩和ケアについても学ぶことができました。

現在は救命部をローテートしており、6月は救急外来専属、7月は病棟勤務することとなっています。当院の救急外来は多くの救急搬送があり忙しい毎日ですが、様々な症例を経験しています。また静脈ルート確保や動脈採血、気管挿管、中心静脈カテーテル挿入、心エコー、腹部エコーなどといった手技も多く経験することができます。私自身としては、まだ経験していない手技や上手にできない手技が多くあるので、これからも日々成長していきたいと思っております。

このようにまだ3ヶ月ではありますが、忙しいけれどもとても楽しく充実した研修医生活を送らせていただいております。まだまだご迷惑をおかけすることも多いとは思いますが、これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

臨床研修医

なかしま まさとし
中島 昌利



こんにちは。研修医1年目の中島昌利と申します。研修が始まって3ヶ月が経ちました。やっと病院にも慣れはじめ、少しずつ仕事を覚えていっています。周りの先生方や看護師さん、コメディカルの方々に日々、助けていただきながら、充実した研修生活を送らせていただいております。3ヶ月の間に私は消化器内科と糖尿病内分泌内科を回らせて頂きました。

はじめに回らせていただいた消化器内科では対象とする臓器が多岐にわたり、便秘症から急性膵炎までいろいろな症例を経験することが出来ました。2ヶ月間消化器内科を回らせていただいたのですが、一番印象に残っているのは急性膵炎の患者さんを担当させても

らったことです。初めてのICUでの管理となり、人工呼吸器や透析など、初めて行う処置も多く、はじめは理解するのがやっとでした。患者さんの病状の変化にあわせて治療を選択していったのですが、先生の判断の早さ、また患者さんをどうにかして助けようとする姿は私にとって、まさに医師として目指すべき姿でした。ICUでの治療の期間は数日というとても短い期間でしたが、何ヶ月分もの知識を教えて頂いた気がします。

今、回らせていただいている糖尿病内分泌内科では血糖値と闘う日々が続いています。予防医学の要素が強い糖尿病内科では患者さんの背景なども考慮にいれながら治療を行っており、消化器内科とは違った医学の面白さを学ばせていただいております。

これから2年間、熊本医療センターにて研修させていただきます。これから多々ご迷惑をおかけすることかと思いますが、一生懸命頑張っていくので、どうかご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

二の丸がんサロン サマーコンサートが開催されました♪

昨年12月のクリスマスコンサートに続き、二の丸がんサロン企画にてトーンチャイムボランティア美齡重様によるサマーコンサートが開催されました。

トーンチャイムの音色がロビーに響き渡り始めると、多くの外来・入院患者様とご家族、スタッフが自然と集まれ、会場は満席となりました。今回は四季の唱歌の演奏に合わせて一緒に歌い、それぞれが過ごされてきた日々のことを思い出され、トーンチャイムが持つ音色に「心に響いた」「感動した」と涙される方もいらっしゃいました。



トーンチャイムの演奏の様子

このように二の丸がんサロンは患者様・ご家族と医療従事者が癒しの時間を共有し分かちあいの場として毎月第1金曜日13:00~15:00まで開催しております。多くのご参加をお待ちしております。

(医療ソーシャルワーカー 西迫 はづき)



満席となった会場の様子

研修のご案内

第175回 月曜会 (無料) (内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成25年 8月19日(月) 19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影
2. 持ち込み症例の検討
3. 症例検討症例検討「インスリノーマの一例」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科医長 橋本 章子
4. ミニレクチャー「MRSA腎症について」
国立病院機構熊本医療センター腎臓内科 三ヶ島歌織

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第143回 三木会 (無料) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成25年 8月22日(木) 19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室 2

1. 「TSHレセプター抗体陽性を呈した甲状腺機能低下症の一例」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科
坂本一比古、渡辺美穂、坂本和香奈、橋本章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一郎
2. 「手術を拒否され5年間経過観察されたインスリノーマにインスリン分泌抑制薬の投与を行い低血糖が劇的に改善された一例」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科
橋本章子、中島昌利、坂本和香奈、高橋毅、豊永哲至、東輝一郎

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一郎 TEL 096-353-6501(代表) 内線5705

第127回 救急症例検討会 (無料)

日時▶平成25年 8月28日(水) 18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「精神科救急」

国立病院機構熊本医療センター精神科部長

渡邊健次郎

国立病院機構熊本医療センター救命救急科医長

原田 正公

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等、全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通)

2013年 研修日程表 8月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

8月	研修センターホール	研修室	その他
1日 木	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「抗菌薬の使い方」 国立病院機構熊本医療センター血液内科部長 日高 道弘		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
2日 金			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
3日 土	13:30~16:30 第88回 救急蘇生法講座 講師 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 瀧 賢一郎 他		
5日 月			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
6日 火			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
7日 水			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス 消
8日 木	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「胸部レントゲン写真の見方」 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科部長 柏原 光介 14:00~15:00 第5回 市民公開講座 「胃癌の治療」 国立病院機構熊本医療センター外科部長 宮成 信友		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
9日 金			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
10日 土	14:00~16:00 第247回 滅菌消毒法講座 「中材業務担当者として知っておきたい感染対策の知識」		
12日 月			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
13日 火			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 19:00~21:00 泌尿器科・放射線科合同プログラム C1
14日 水			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス 消
15日 木			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
16日 金		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「慢性肝炎について」	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
19日 月	19:00~20:30 第175回 月曜会(内科症例検討会) 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
20日 火			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
21日 水			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス 消
22日 木	20:00~21:30 第64回 医歯連携セミナー 「国立病院機構熊本医療センターから紹介された患者の症例」 熊本大学歯科口腔外科学教室 教授 藤原 正徳	19:00~20:45 第143回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】 【日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定】	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
23日 金			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
24日 土	9:00~17:35 第2回 ナースのためのエンドオブライフ・ケアセミナー -ELNEC-J コアカリキュラム-		
25日 日	9:00~16:50 第2回 ナースのためのエンドオブライフ・ケアセミナー -ELNEC-J コアカリキュラム-		
26日 月			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
27日 火			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
28日 水	18:30~20:00 第127回 救急症例検討会 「精神科救急」		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス 消
29日 木	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「災害医療」 国立病院機構熊本医療センター救急科医長 原田 正公		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
30日 金			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
31日 土	9:00~16:00 楽しく学ぶ基礎看護研修		

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6東 6階東病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読書室 手術室

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ (<http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>) をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501 (代) 内線2630 096-353-3515 (直通)